2026年度 神戸大学大学院農学研究科リカレント

食料・農業・農村の現状とスマート農業の基礎

我が国の農業・農村の現状を理解するとともに、リモートセンシング、ロボット、AI、IoTなど先端技術の進展を背景に、農業情報システムの役割や政策的視点からの動向を学びます。また、水稲・果樹など多様な作物におけるスマート農業の具体的な活用事例、対応機器やデータ活用法を通じて、実践的な基礎を習得します。



募集要項

募集期間

2026.10.6(火)~11.30(月)

受講期間

2026.10.6(火)~12.31(木)

※12月31日の23：59をもって、全ての講座の公開が終わります。

※お申し込みいただき、3営業日以降に受講が開始できます。

受講人数

最大40人

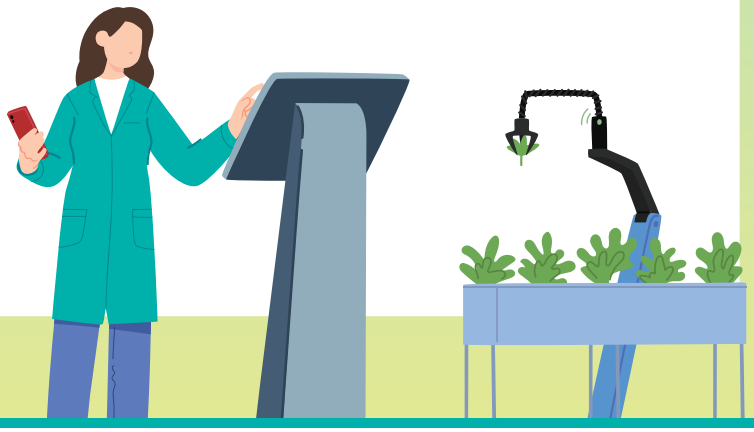
附属農場での農場実習にもご参加いただけます。
詳細は裏面の講座内容をご覧ください。

受講形式

eラーニング形式（学習システムを介した教員への質疑応答あり）を8回。

受講料

1科目 20,000円



お問合せ先 | KOBE UNIVERSITY 神戸大学大学院農学研究科 ans-recurrent@office.kobe-u.ac.jp

講座内容

標準学習時間：10時間

第1回　イントロダクション&農業情報システム

スマート農業の概念をまず説明します。農業情報システムは各種技術とユーザーの橋渡しを担います。リモートセンシングを用いた技術開発について紹介します。

第2回　食料・農業・農村政策とスマート農業

農村政策の観点からスマート農業の現状について説明します。農業分野におけるICT、ロボット技術の活用例やスマート農業技術活用サービスついて行政的視点から説明します。

第3回　スマート農業1

水稲栽培におけるスマート農業についてお話します。育苗から田植えまでのプロセスで活用できるデータを対象に稲作におけるスマート農業を深掘りします。

第4回　スマート農業2

水稲栽培におけるスマート農業についてお話します。栽培管理から収穫までのプロセスで活用できるデータを対象に稲作や芝栽培におけるスマート農業を深掘りします。

第5回　スマート農業3

果樹栽培におけるスマート農業についてお話します。梨栽培を対象に剪定から収穫までのプロセスで活用できるデータについてご紹介します。

第6回　スマート農業4

果樹栽培におけるスマート農業についてお話します。ワイン用ブドウ栽培や梨栽培で今後活躍が期待される小型ロボットの紹介と収集可能なデータについて紹介し農家に役立つ方策について述べます。

第7回　スマート農業対応機器　利用と応用1

トラクタの自動操舵の説明と実際、さらに高さの情報を使った圃場の高低差マップを紹介し、農場での利用例と、その基礎となるGNSS測位を利用する際の注意点を解説します。

第8回　スマート農業対応機器　利用と応用2

水管理システム、リモセン用ドローンによる水稲生育、収量コンバインによる収量マップ、玄米の色彩選別機を紹介し、そのデータの使い方や栽培上の留意点を解説します。

食資源教育研究センターでの農場実習（実習の見学となります）

実施日時	2026年12月2日（水）13:00-17:00
実習内容	スマート農場未経験者向けの農場実習（見学）。自動操舵と手動操舵の比較、ドローン防除のデモと従来法との労働強度の比較を予定。
集合・解散	防寒をして、開始15分前に食資源教育研究センター学生宿泊棟前に集合。現地解散。
受入可能人数	5名（先着順）
申込締切	2026年11月25日（水）

こんな人におすすめ！

1. 農業分野におけるIoTやAI活用の最新動向や事例を把握し、自社サービスや技術の展開に活かしたい企業の担当者の方
2. 農村振興や農業支援の政策立案においてスマート農業の導入状況や対応機器の知識を体系的に習得したい自治体や行政で農業政策に関わる方
3. 実際の作物別（稲作・果樹など）の事例や使える機器・技術を知り、現場への導入を検討したい農業従事者・次世代農家の方
4. 農業情報システムやリモートセンシング技術の基礎から実用例までを学び、研究・教育内容を深めたい農業関連の研究・教育に携わる学生・研究者の方

申込方法

以下のURLかQRコードで申込フォームにアクセスし、お申込みください。

https://forms.gle/KBubHNuaHcLozDky7

